

# 山口県介護支援専門員協会だより

平成27年度 第1号 山口県介護支援専門員協会広報事業部



## ◆会長挨拶・総会の報告

山口県介護支援専門員協会 佐々木啓太

会員の皆様方、地域の皆様には平素より大変お世話になり、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。さて、昨年度会員の皆様一人ひとりにご意見をいただき、理事会でも議論してきました「一般社団法人の設立」について、昨年度末の理事会において、皆様より賛同いただき、今着々と準備を進めているところであります。法人化すると、今までの任意団体と違い、責任を持てる組織になるため、今皆様が受けている法定研修の委託や、その他の委託業務についても受けることが出来るようになります。まずは、現在委託を受けている実務従事者基礎研修が移行される「介護支援専門員実務研修」の受託に向けて、県と協議をしているところであります。また、事務局の場所や人員体制についても、着々と整備をしています。責任のある組織となり、皆様からも「法人格を取得してよかった」と思ってもらえる体制整備に努めてまいります。

総会については、平成27年5月30日に山口県セミナーパークにて開催いたしました。委任状出席8名を含め、65名の代議員の方にご出席いただきました。

昨年度の事業計画、決算報告に、前述した一般社団法人の取得のことも含む、今年度事業計画、予算案について、ご承認を得ることができました。

今年度の事業計画の主なものとしては、法人化への準備が大きなものとなりますが、引き続き、地域との顔の見える関係を進めていくこと、ニーズのある研修会の開催、広報、情報機能の充実（スマートフォンアプリの開発）、研究に力点を置いたケアマネジメント研究大会の開催（今年度は日本ケアマネジメント学会との共催）などを挙げていきます。

今、社会保障審議会では、平成30年改正に向けた議論がすでにすすんでいます。今回の改正では、居宅介護支援の分野について、タイムスタディ調査を行うこと等本当の意味でのケアマネジメントの質が問われる場面が出てくると思われます。私たちは、職能団体として結束し、ケアマネジメントの本質を評価していかなければなりません。今年度は、県の会員数を二千人にするという目標を立て、組織力を高め、国に発信できる組織を目指しています。ぜひ皆様一人ひとりの力を結集し、「介護支援専門員って必要よね」と国民が認める資格になるよう頑張っていきましょう。



## ◆日本介護支援専門員協会 第7回 社員総会出席の報告

平成27年6月21日（日）、東京鉄鋼会館にて『日本介護支援専門員協会 第7回 社員総会』が開催されました。当協会からは、佐々木、二井、堀田の3名が代議員として出席してきました。

鷲見会長の冒頭挨拶で、昨年度の活動としては、会員獲得のための組織の強化を中心として、研修改善事業、老健事業、各種委員会活動を実施し、4月に行われた報酬改定に向けて活動をしてきたことを振り返られました。そして、今回の報酬改定においては、特定事業所の加算を新たに取得することができ、独立型居宅介護支援事業所の公正中立なケアマネジメントへの道筋がついたことは、大きな成果であったと述べられました。

また、高齢化がピークを迎える2025年を見据え、地域包括ケアの実現には、介護支援専門員の存在が欠かせないこと、我々自身がケアマネジメントに誇りを持ち、個々を支援できるように環境を整えることが職能団体の役割であるということも述べられました。

その後、平成26年度の事業報告、決算報告、平成27年度の事業計画、予算案等が決議されました。代議員からは、「介護支援専門員の国家資格化について」、「会員数の目標人数」などについての質問があり、日本協会から回答をされました。

今回は当日出席した代議員77名による、役員改選選挙も行われました。会長候補者理事選挙は、鷲見よしみ候補40票、濱田和則候補37票で、鷲見よしみ候補が当選しました。また、全国選出理事選挙は、11名が立候補し、選挙管理規定に基づき、有効投票数の過半数を得た者のうち得票数上位10名が当選しました。また、中国ブロック理事として、山口県支部の橘康彦氏が選出されました。

最後に、鷲見会長は、新会長就任の挨拶で、「一丸となって協会運営にあたっていくのでよろしくお願いしたい」と述べられました。

